

3 - 1

松本城の城主（1）

武田氏と小笠原貞慶

松本城管理事務所

1 小笠原氏は林城を本城とし信濃の守護として君臨していましたが、武田氏の勢力におされ天文19年、府中を追われることとなります。天文17年小笠原氏の凋落のきっかけとなった武田氏との戦いをなんというでしょう。 ①塩尻峠の戦い

天文17年(1548)7月19日に塩尻峠・勝弦峠一帯で行なわれた合戦で小笠原長時勢の兵力は5000余であったが山辺氏・西牧氏・三村氏が寝返ったため敗退した。武田軍の兵力は不明であるが塩尻峠を越えて村井に進み、林城攻略のために中山和泉に陣取ったが、小諸方面で村上氏が動き出したので信玄は兵を納めた。

2 武田信玄の肖像画は鎧兜に身を固め、軍配を持ったものが一般的ですが、高野山持明院には青年武田信玄の肖像が残されています。若き日の信玄の肖像に○を付けなさい。 ③ 参考 ①羽柴秀吉 ②齊藤義龍(道三の子)



3 武田信玄に攻められた林城は自落（じらく）しますが、「自落」とはどのようなことでしょうか。 ②敵の勢力をおそれ、味方に寝返る者が多く戦わずして城から撤退すること。

○天文17年10月には林城とは指呼の間にある7月占領していた村井城を整備して、小笠原方の諸将の懐柔を行ないました。天文19年7月15日午後12時頃には林城をはじめ深志・岡田・桐原・山家等の小笠原氏の支城が戦わずして自落している。

4 小笠原長時は林城を去るにあたり自分の愛した「ぼたん」の株を兎川寺の住職に託したと伝えられています。およそ400年余の間、密かに育てられ現在松本城本丸庭園にその「ぼたん」が寄贈され植えられています。そのぼたんの名前を答えなさい。

②小笠原ぼたん (4.29 配布小笠原ぼたんガイド参照)

5 武田信玄が府中(現在の松本)を占領したのは1550年(天文19年)のことですが、武田氏は何年間松本を支配下においていましたか。

③32年間

天正10年(1582)3月11日織田軍に追い詰められ武田勝頼自害し武田氏が滅亡した。3月29日に深志の地は信長により木曾義昌に与えられている。(同年6月2日、信長は本能寺に自刃)



6 武田氏は小笠原氏の支城であった深志城を整備拡大して近世の松本城の縄張りをほぼ造りあげました。平坦地にこのような広い城を築造したわけを

1つ選びなさい。②上田や北信濃の敵に備える基地とするため

武田氏は村上義清とその背後の上杉謙信に対する拠点として整備した。



7 小笠原氏は各地の戦国大名を頼り各地を転々としてますが、大名たちは長時を受け入れ小笠原家が伝承している馬術や弓術等の武術や礼法を教授され大名としての格を上げることができたので厚遇したと考えられています。林城を追われた長時が一番最初にたよった武将は誰でしょう。

①村上義清

流浪する小笠原長時 ①村上義清 ②天文21(1552)年8月 越後上杉謙信 ③1554年小笠原信定、下伊那鈴岡城 ④下伊那下條村 下條信氏 ⑤伊勢外宮御師榎倉武国 ⑥1555年京都同族三好長慶 芥川城 將軍足利義輝の弓矢師範 ⑦1568年芥川城落城 越後上杉謙信 ⑧天正6(1678)謙信の死後 会津若松黒河城主 蘆名盛氏 ※天正11年2月25日家臣 坂西弾左衛門に暗殺される。

8 武田氏によって松本城や領内が整備されますが次のうち武田氏が行なわなかったのはどの工事でしょう。 ③総堀の北東隅に捨て堀土塁を築いた(石川氏と考えられる)

9 天正10年、武田氏が滅び、本能寺の変により織田信長が自刃しました。この混乱に乗じて旧地を回復したのが小笠原長時の子貞慶でした。府中を松本と改め深志城を松本城と改めました。貞慶はその時蘆名盛氏のもとに身を寄せていた父長時を迎えにやります。しかし、長時は家臣坂西弾左衛門に暗殺され松本には戻りませんでした。70歳でした。長時の墓は現在の何市にありますか。 ④会津若松市

10 徳川方であった貞慶は天正13年石川数正の出奔を機に、秀吉側に付きますが、その後、長子秀政に家督を譲り、秀吉のとりなしによって家康の嫡子信康の娘を秀政の妻として迎え徳川譜代衆に加えられることになった。秀政の室となった家康の孫を何姫と呼ぶか答えなさい。 ②福姫

